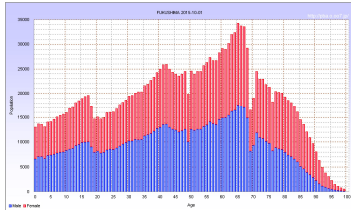


## 国勢調査員の現場から

10月末に国勢調査員としての任務がで終わりました。5年ごとの調査で今回は3回目。傘寿も近くもう辞めようと思っていたのが、なり手が少なく経験者は是非にとの要請があったからです。身分は総務大臣に任命される非常勤の公務員。報酬（1区3.5万~4万円、2区で7~8万円）もあるので時間の都合がつく人には“よい仕事”だと思うのですが希望者がいない。なかなか調査対象者に会えないことや、ときに無理解な対応をされること、それに今回はコロナ感染への心配もあったかもしれません。



私の場合、担当地区も自分が居住する大型団地の一棟。調査対象家庭はちょうど100。経験もあるし“楽勝”と思い引き受けたのですが、高齢化は自身にも現れていて、5年前のことも忘れていくことが多く結構な難儀をしたものでした。

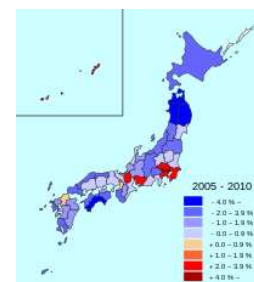
今回、一番変わった点は、コロナ感染を防ぐ策として調査票を郵送ではなくインターネット返信に力点が置かれていたことです。念のため自分の申告を調査票とネットで試してみたところ、ネットの方がかなり楽のように思えました。

どちらにしても、仕事はまずは調査票と案内資料の入った封筒を担当地区の全家庭に配布作業。その際、インターフォン越しに家人と話をしてからドアポストに入れるのですが、一番困るのはやはり不在者が多いこと。最低3回の訪問が義務づけられていますが、自分の場合、5回ほど訪問してやっと会えたケースもありました。

各家庭の対応はさまざまでした。「ご苦労さまですね」とねぎらいの言葉をかけてくれる人がいるかと思うと「なんでやらなきゃいけないんだよ！あんたに家族の人数とか男女の比なんて言いたくはないね」とつつけんどんな言葉を投げかけられることもありました。前回は年配の婦人から「ご苦労さまです。コーヒーでも飲んでいきませんか」なんて声をかけられたこともあり、丁重にお断りすると「じゃあこの缶コーヒーを」なんて・・・。

問題は不在のほかに玄関や郵便受けに名前(表札)が無い家が多いこと。これも前回のことですが、棟の自治会長をしている人に頼まれたのです。

「自分も防災等で住んでいる人のことを熟知していることが必要なのだが、なかなか実態が分からない。あなたがつかんだ情報を教えてくださいませんか」と。もちろん、「目的外使用になるので申し訳ありませんが・・・」とお断りしたのですが、なんでも「個人情報、個人情報」と言われる社会。住人を守ろうとしている役員も悩んでいる。だんだん閉鎖的になりつつある地域になんとかかならないものか、と思ったりもしたものでした。



期間中は毎朝メールで担当地区の回答状況の一覧が届きました。そこで未回答者が分かるので指示された日程にしたがい督促のチラシを入れたり、団地の管理事務所では不在者や不明者の実態を聞き最低限の内容の調査票の記入もしました。

長期不在者やマンションを事務所として使っている人（この場合は自宅で申告）もいます。私の担当地区は最終的に8割強の回答率でネットと郵送がほぼ半々でした。高齢者が多い棟を思うとネットが少ないのはやむを得ないのかな、と思った次第です。

(グラフと地図はイメージで本文とは関係ありません)